

## Wonderful Presentation !!

熊本大学医学部附属病院 橋田 昌弘

平成23年度の海外研修生としてスタンフォード大学に派遣されましたので、その結果を報告します。一言で表現するならば「エキサイティングな1週間」でした。

研修の目的は3つあり、それぞれの達成度を報告する。世界の最先端の研究状況を見る。次世代の分子イメージングや最新のMRIの研究成果を見て、将来の診断イメージングの状況が垣間見えた。スタンフォード大学の最大の強みは、化学、イメージング、エンジニアリング、基礎医学、臨床医学等が1つの大学内(ラボ内)で連携、完結できることである。日本が積極的に連携して世界に情報発信をする必要性を感じた。マネージメントを学ぶ:研究と臨床の違いはあるものの、アメリカ的に分担と責任が明確にされている印象であった。また、モズレイ先生の講義を受け、相手のモチベーション上げる重要性を痛感した。リフレッシュ:風邪をひき最悪のコンディションであったが、日頃の仕事を離れ、スタンフォード大学で刺激を受け、最高の仲間と出会い十分に目的を達成した。

全国から集まった20人の仲間と知り合えたのは、大きな財産となった。1週間の研修(合宿)期間中行動を共にし、6期生のコミュニティができたと思う。今後多くの場面で、お互いに情報交換でき、共にお酒を飲み語らえる仲間は貴重である。唯一残念なのは、風邪で体調を崩し、夜遅くまで付き合えなかったことである。

「理想の技師像とは?」難しい問題であるが、アメリカの放射線技師や医療制度、医学物理士の存在等を知ると、日本の技師(技師制度)の長所と短所が見えてくる。アメリカでは制度上、技師(臨床)と医学物理士(研究)が2分化されているが、日本では技師が両方に携われる強みがある。研修後の夜の部では、全国の多くの方と意見(情報)交換でき、その中で、お手本となる方が多くおられた。各研修生は、職場や家庭の環境、自分のポジション、専門性の違いは千差万別であったが、共通しているのは「高いモチベーション」と「目的意識」であった。この2つがあれば、理想の技師に少しでも近づけるのではなかろうか?

最後に、この研修にご尽力頂いたモズレイ先生を始めとするスタンフォード大学の皆様、日本放射線技術学会、GEヘルスケア・ジャパン、関係会社の多くの皆様に心から感謝申し上げます。また、1週間の留守をカバーして頂いた職場の皆様にも感謝申し上げます。



Wonderful presentation のモズレイ先生と